

平成31年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人目黒区芸術文化振興財団	
施 設 名	めぐろパーシモンホール	
助 成 対 象 活 動 名	普及啓発事業	
内定額(総額)	1,243	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人 材 養 成 事 業	0	(千円)
普 及 啓 発 事 業	1,243	(千円)

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
<p data-bbox="137 394 783 427">【地域の特性とアウトリーチプログラムのミッション】</p> <p data-bbox="113 439 1477 618">平成 28 年度の「めぐろ芸術文化振興プラン」の改訂にあたり、平成 26 年に目黒区が実施した「芸術文化に関する意識調査」では、9 割以上の区民が「芸術に触れたり、活動することは大切である」と答えており、特に「子どもの頃から親しめる芸術文化の振興」が大切であるという回答が約 7 割を占めたことから、区民の多くが芸術文化の重要性を認識しており、子どもが触れられる芸術文化へのニーズが高いことが分かる。</p> <p data-bbox="113 629 1477 719">また、目黒区は少子高齢化が顕著であるため、子どもや子育て世代にとっても魅力的で、かつ高齢者や心身が不自由な人も生きがいを持って生活できる環境が整えられることが求められている。</p> <p data-bbox="113 730 1477 954">以上のようなニーズに応えるため、日頃芸術文化に触れる機会が少ない方々に、間近で芸術文化に触れる機会を提供し、芸術文化の魅力を味わってもらうことで関心を喚起し、鑑賞者、支援者を増やす。また、地域の子どもたちに芸術文化の魅力を伝えることで情操を養い、能動的に鑑賞、実演する人材を育成し、地域で多彩な芸術文化活動が育まれる土壌を形成し、これによって地域が発展することを目的にアウトリーチプログラムを実施している。</p> <p data-bbox="137 1010 504 1043">【平成 31 年度の実施について】</p> <p data-bbox="113 1055 1477 1189">各施設に実施希望調査を行ったところ、目標を上回る希望があり、当初の目標である 31 箇所を上回る 35 箇所の会場で実施した。今年度初めて目黒区立小学校全校で実施したほか、病院や福祉施設でも予定通り実施し、多くの子どもたちやホールに来場することが困難な方々に間近で芸術文化に触れる機会を提供することができた。</p>
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
<p data-bbox="113 1368 1477 1547">アウトリーチプログラムは毎年継続して実施を希望する学校や施設が多く、学校教諭等同士の口コミで評判が広がるなどして、実施を希望する学校や施設は着実に増えており（平成 31 年度は初めて区立小学校全校が参加する等平成 30 年度より 6 校増加）、児童・生徒がプロの演奏家による演奏を間近で鑑賞したり、表現の楽しみを知ることで、豊かな情操を身に付ける機会となっている。</p> <p data-bbox="113 1559 1477 1648">また、施設担当者や出演者アンケートからも、継続を強く望む声が寄せられ、地域社会における当事業の重要性が増していることを示している。</p> <p data-bbox="113 1659 1477 1749">実際に、アウトリーチプログラムを鑑賞した方が出演者のワークショップに参加したり、当財団主催・共催公演に行く機会も生まれ、新しい鑑賞者の掘り起しにもつながり、地域の文化的土壌の形成・醸成に寄与している。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

計 35 箇所の会場で計 3,066 人を対象にアウトリーチプログラムを実施することで、日頃芸術文化に触れる機会が少ない、ホールに来るきっかけがない多くの人々に、間近で実演芸術に触れる機会を提供することができた。

【指標と達成結果】

①公演会場の増加

目標 31 か所に対し 4 か所増の 35 か所で実施し、112%の達成率であった。小学校については目黒区立全校（22 校）で実施することができた。

②鑑賞人数の増加

目標 2,550 人に対し 516 人増の 3,066 人となり、120%の達成率であった。公演会場で増加した学校の鑑賞人数が 467 人増え、その他小中学生の人数が全体的に増加傾向にあることが要因と考えられる。

③指定管理者運営評価結果報告書（平成 30 年度）

「子どもたちや区民が芸術文化に親しみ、深める機会を創出している」という評価に 5 点満点中 4.4 点の高評価を得た。また、アウトリーチの継続を望む評価を得た。

④実施会場アンケート結果

- ・内容について→5 点満点（良い）中、4.8 点の高評価を得た。
- ・今後の実施希望について→希望するという回答が 100%であった。



【小学校でのアウトリーチプログラム実施の様子】

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【事業期間について】

当初の事業期間（2019年6月～2020年3月までの間）に対し、ほぼ計画通りに事業を実施した。

平成31年4月に目黒区小中学校副校長会においてアウトリーチプログラム実施を周知し、各学校からの希望調査を実施した。学校以外の施設については、ホールから希望調査票を担当者に送り、個別に希望調査を実施することで、希望の取りこぼしを防いだ。

希望調査を受け、各施設担当者と前年度の振り返りを基に適切なジャンル・出演者の協議を行い、日程は施設の行事開催時期を聞き調整するなどし、実施施設の希望に沿う事業となるよう考慮した。

【事業費について】

助成対象事業費当初予算額に対する実績額の変更率は-0.9%と、ほぼ計画通りに進んだ。

また、助成金を得ることで実施会場や実施回数を増やすことが可能となった。具体的には、初実施となった中学校では津軽三味線や胡弓・琉球三線・尺八の演奏を行い多様な日本の伝統音楽を紹介したほか、幼稚園では、子どもたちには馴染みの薄いカリブ海のトリニダード・ドバゴ発祥のスティールパンとマリンバの打楽器トリオで実施した。

鑑賞人数は、目標2,550人に対して実績3,066人と120%の達成率となった。



【幼稚園や福祉施設でのアウトリーチプログラム実施の様子】

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【地域の文化拠点として】

めぐろパーシモンホールは、目黒区文化ホールとして平成14年に開館した、大・小ホールと練習室等から成る文化施設である。1200席の大ホールは音響、設備の評価も高く、地域の学校や文化団体の発表会や鑑賞授業の会場として利用される他、プロ公演の貸館利用も多い。小ホールは、劇場型と平土間での利用が出来る為、発表会やワークショップなど、多様に活用されている。

目黒区の人口およそ28.15万人(令和元年10月1日現在)に対し、目黒区文化ホールの年間利用者は32.38万人(平成30年度実績)であり、また、大ホール及び小ホールも毎年80%以上の非常に高い利用率である。

また、開館当初から(公財)目黒区芸術文化振興財団が一貫して運営・管理を行っていることで、ホールと地域の芸術活動団体とのネットワークが形成され、芸術文化を通じて地域の人々をつなげる役割も担っている。

【事業の特徴】

本事業はプロの実演家による質の高い演奏とともに演奏家との交流を楽しんでもらう鑑賞型、実演家の指導による体験型の大きく分けて2つの形態で実施している。また、参加者がパフォーマンスをより間近に感じ取れるよう、音楽室などのコンパクトな会場で実施している。

起用する実演家は、実演家の広いネットワークを持つNPO法人2団体からの紹介により選出している。また、ホールで公演を行う演奏家や、区内に拠点を置く実演団体のアーティストなど、ホール職員が培ってきた人的ネットワークの中から、実施施設の希望や対象者を踏まえ、ジャンルや演奏者を選定している。

実施内容についても、ホール職員、実施会場担当者、実演家の三者で調整しながら、対象者にマッチした内容を提供できるよう考慮している。

福祉施設や病院、特別養護老人ホームで実施する際は、音に敏感な方も多いため、ピアノ調律の実施は控えたり、学校や子ども園等で実施の際は、養護支援が必要な子どもも介助教諭の協力を得て、鑑賞や体験に参加を促すよう工夫をしている。

実施後には参加者からの感想や施設担当者のアンケートなどから意見や要望を取り入れ、より満足度の高い内容での実施を目指しながら継続して実施していることで、教員や施設担当者間の口コミなどでも実施希望数が増加している。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

目黒区では、毎年、指定管理者の評価を評価委員が行っている。アウトリーチプログラムについては、「教育活動及び区民が芸術文化に触れる機会」の項目で評価しており、本事業については、この評価を指標として事業を実施している。

【参考】評価項目 教育活動及び区民が芸術文化に触れる機会

年度	26	27	28	29	30
配点(5点満点)	4.4	4.6	4.4	4.6	4.4

継続的に高評価を得ており、30年度には、アウトリーチプログラムについて、「引き続き努力の継続を期待する。子どものみならず高齢者や療養者等へ今後も継続して実施してもらいたい。」との評価を受けた。

当事業を開始して15年が経過し、実施希望施設が増加していることに加え、継続して実施している学校や施設の教員や担当者のほとんどが、恒例事業として年間のカリキュラムやスケジュールの中に当事業を組み込んでいることから、地域に当事業が根付き、重要度が高まっていることが伺える。

【実績の発信】

アウトリーチプログラムの平成30年度事業報告を財団情報紙(平成31年3月発行号)に掲載したり、目黒区役所ロビーにて掲示し取り組みを紹介したほか、ホールホームページにプログラムの様子を掲載し、事業実施を広く発信している。

2018年度 アウトリーチプログラム 事業報告

数字でわかる! 2018年度のアウトリーチプログラム (赤丸印で実施レポートを公開)

- 実施数: 2018年度 1,000 (2017年度 1,000)
- 鑑賞人数: 2018年度 14,804 (2017年度 12,352)
- 実施ジャンル: 2018年度 7 (2017年度 7)

ピックアッププログラム:

- ワールドミュージック** (10月15日)
 - 目黒区立駒場小学校 音楽室 (6年生 63名)
 - 小林武文 (ソウル)、チェ ジェチヨル (韓国)、大野真央 (タイ)
- 声楽** (11月21日)
 - 心身障害センターあいアイ館 (利用者 職員 50名)
 - 鈴木康雄 (ソプラノ)、杉本優子 (ピアノ)
- 弦楽器** (11月30日)
 - 目黒区立中野小学校 音楽室 (4年生 61名)
 - 白井 圭 (ヴァイオリン)、津田裕也 (ピアノ)
- 金管楽器 (金管五重奏)** (2019年 1月22日)
 - 目黒区立不動小学校 第2音楽室 (5年生 67名)
 - 原田朝久 (トランペット)、東野隆雄 (トランペット)、豊田実加 (ホルン)、眞田純一 (トロンボーン)、山崎真次 (チューバ)

ホールホームページのスクリーンショット

橘の木日記・アウトリーチプログラム

公演情報、参加プログラム、チケット購入、ホール・施設利用、ホールについて、交通アクセス

【アウトリーチプログラム】目黒区立駒場小学校



目黒区立駒場小学校 6年生 76名
 日時: 2020年2月3日(月) 13:35~14:35
 出演: 正戸聖佳 (ヴァイオリン)、大隅真夏 (ピアノ)

グノー: アヴェ・マリア
 フォーレ: 夢のあとに
 イザイ: 銀球奏ヴァイオリンソナタ第4巻より 第2楽章 サラバンド
 イザイ: 子どもの夢
 ショパン: サーン・サンス編曲: ノクターン第16番
 ラフマニノフ: ロマンズ&ハンガリアンダンス 作品6

主催:公益財団法人目黒区芸術文化振興財団
 共催: NPO法人 子どもに音楽を
 助成:文化庁文化芸術振興補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)
 独立行政法人日本芸術文化振興会
 後援: 目黒区教育委員会

【財団情報紙にアウトリーチプログラム事業報告を掲載】

【ホールホームページに事業の様子を掲載】

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

持続的に組織活動を発展させるため、以下の取り組みを行っている。

【人材育成の役割】

地域の文化施設として、めぐろパーシモンホールが求められている社会的役割は、芸術・文化を媒体とした「文化縁」の形成とその充実による地域の活性化である。アウトリーチプログラムを実施する中で、ホールの担当職員が実施先の学校や施設の担当者と面談しニーズを汲み上げ、ホールのネットワークやNPO法人の紹介により適切な実演家を選出し、実演家側と内容を協議するといった経験を積むことで、ホール自体のミッションを果たすための人材の育成に寄与している。

【財務面での取り組み】

持続的、発展的な事業実施と安定的な収益基盤確保のため、指定管理料、事業収入、施設利用料のほか、助成金や法人・個人賛助会による協賛金の獲得に向け積極的な周知を行いつつ、継続的な経費縮減に努めている。

【地域のネットワークの強化】

アウトリーチプログラムを通じて、区内の学校や芸術文化活動団体との連携を強化している。

①大学との連携

目黒区にキャンパスを置く東京音楽大学の学生が「アウトリーチプログラム 東京医療センターオータムコンサート」に出演している。

②地元で活躍するアマチュア団体との連携

目黒区で活動するアマチュア5団体と「めぐろパーシモンホール芸術文化ネットワーク」を平成23年に発足し、そのメンバーが区内特別養護老人ホームのアウトリーチプログラムに出演している。